

一人で悩まずに お電話を
生活相談・労働相談／弁護士無料法律相談
電話 72-7816

明るい取手

2011年12月11日(日)

発行:日本共産党取手市委員会
取手市井野3-19-6 TEL.72-7816
メール jcp.toride@blue.ocn.ne.jp

生活のお困りごとなどお気軽にご相談を

- 高木晶市委員長 / 電話 74-2004
- 林 みやこ市議 / 電話 78-8481
- 遠山ちえ子市議 / 電話 83-8290
- 加増みつ子市議 / 電話 74-8154
- 鈴木潔暮らしの相談室長 / 電話 74-8160
- 関戸勇防災・環境対策室長 / 電話 78-0500

日本共産党が提出した「放射能汚染対策に関する要望書」に対し

取手市が文書で回答



要望書提出し、市幹部と協議する日本共産党

日本共産党(林みやこ市議、加増みつ子市議、遠山ちえ子市議と、鈴木きよし市議選予定候補、せきど勇市議選予定候補)は、11月18日、取手市長に対し、1200筆を超える署名を添え、原発事故・放射能汚染対策に関する新たな要望書を提出。12月8日に取手市長から文書で回答がありました。

日本共産党が取手市長に提出した要望(14項目)

- 放射線量測定は、公道・側溝はもとより一般住宅、企業等民間、UR(公団)の敷地、施設も対象にする。
- 測定は市民が希望するすべての場所を行い、早急な測定器の個人への貸し出しを行う。
- 年間1ミリシーベルト以下の基準で除染を公共・民間を問わず実施する。毎時0.6マイクロシーベルト(放射線管理区域レベル)を超えるところはただちに「除染」する。
- 学校・保育所幼稚園などの除染は、ボランティアでなく施工業者に委託する。
- 放射線量が明らかに高い道路側溝、路肩・歩道の雑草等は無条件に除染する。
- 児童教育施設などに「除染マニュアル」の徹底を図る。私立施設も公共施設と同様に「除染」も全額補助とする。
- 家庭用「除染手引書」の作成・配布、家庭でできる「除染」対策の徹底。
- 放射線量の高いところでの子どもの遊びに教育的指導を行う。
- 希望者のすべてが行える食品検査体制を図る。
- 福島県で行っている子どもたちの健康調査を取手市でも実施する。
- 「除染」後の汚染物質の仮置き場設置を国に求め、取手市としても暫定的仮置き場の設置を早急に決める。
- ゴミ処理施設・常総環境センター飛灰等の処分場の確保と周辺環境調査を実施する。
- 放射能対策のすべての責任は東電と国に求める。
- 東海第二原発の廃炉を求める。

取手市が日本共産党へ回答は先の14項目に全てに対し、項目ごとに回答がありました。その内の主なものについて回答(要旨)をお知らせします。

回答の全文がお知りになりたい方は、日本共産党取手市委員会にご連絡ください。尚、取手市委員会のホームページにも掲載します。

放射線の測定箇所を増やす。

現在、市が定期的実施している100箇所に加え、取手市の除染計画作成のための計測を実施する。今後は全市政協力員に測定器の貸し出しを行って、各地区での測定をしていただく。

放射線測定器の貸し出しは市政協力員へ。

12月上旬に全市政協力員(81名)に測定器の貸し出しを予定している。一般市民個人への直接貸し出しについての回答はありませんでした。

除染対象は年間1ミリシーベルト以上の区域とする。

国の法律に定められている方針の年間追加被ばく線量が年間1ミリシーベルト以上となる区域内の施設などを対象に除染計画を策定する。

道路、側溝などは除染は「実施計画」に基づき行う。

除染に関する手引き書を配布する。

市政協力員への測定器の貸し出しと合わせて手引き書を配布する。

放射能測定器による食品の検査を始める。

12月5日より受付を開始し、市民の方の食品検査を開始する。

除染作業に伴い発生する土壌の仮置き場については、今後検討する。

放射能対策費用については東電に引き続き求めていく。今回の放射能汚染の対処と一刻も早い事態の収束に向けた要望も行なっていきたい。

東海第二発電所は老朽化しているなどの課題もあるので、国が示す今後の原発にたいする安全対策や、茨城県および関係自治体の状況も踏まえ、議論していく必要がある。

日本共産党市議団独自の放射線量測定、調査活動などの中で寄せられた住民の声をもとに要望したものです。

引き続き、測定実施中／ご近所など測定ご希望の方は、日本共産党取手市委員会までご連絡ください。測定にうかがいます。 電話／72-7816

日本共産党は引き続き、市民の希望にこたえる「除染活動と健康・食品安全対策を求める要望」署名に取り組んでいます。ご協力ください。

安齋育郎さんと考える

放射能汚染 裏面

安齋育郎さんと考える

放射能汚染

2011年7月31日号～10月16日号の「しんぶん赤旗」日曜版に掲載

福島原発事故により、この近辺も高い放射能の数値がでています。「子どもたちの10年後、20年後が心配」「外で遊ばせてあげようぶ?」「お店の野菜は安全なの?」など、疑問の声がたくさんだされています。私たちが毎週発行している「しんぶん赤旗」日曜版に、放射線防護学が専門の安齋育郎立命館大学名誉教授の記事からお知らせします。

成長期の子ども、影響大きい

しんぶん「赤旗」日曜版 8/14号

最も心配になるのが放射線の人体への影響です。起こる障害には大きく言って2つあります。…略…
…もう一つは被ばく量が少なくてもそれなりの確立(割合)で障害が発生する恐れがあるのです。この障害には、がんや遺伝的影響があげられます。からだを守る基本は「放射線は浴びないに越したことはない」ということです。子どもの方がおとなより放射線の影響を受けやすいのにはわけがあります。細胞が

未分化なモノ、細胞分裂が盛んなものほど、放射線の感受性が高いという法則があります。加えて臓器の目方がおとなよりも小さい子どもの方が多く被ばくするからです。甲状腺の目方は大人20グラムですが、出生時の子どもはでは約1グラムで、シーベルトに換算した被ばく量が多くなります。



しんぶん赤旗・日曜版に13回にわたって連載されました。記事は編集者の責任でかなり省略しています。本文がほしい方はお気軽にお問い合わせください。

米、魚、野菜の除染法

しんぶん「赤旗」日曜版 9/18号

内部被ばくを防ぐには、①放射性物質をできるだけ体に取り込まないようにする②体の中に取り込んだらできるだけ早く排出する—の2つの方法しかありません。

食品汚染についてはまず、汚染の実態をよくつかむことが大事です。

私たちが毎日食べている食品には、自然界に存在する自然放射能のカリウム40が1kgあたり数十～数百ベクレル含まれ

ています。ですから、セシウム137などによる汚染も、少しでもあったらイヤだという原則的立場は大切ですが、食品中の放射能をゼロにすることはできないのです。

まずコメです。ストロンチウム90は、脱穀によって半減し、そこからさらに精米して白米にすることで60%が除去(中略)、さらに研ぐことで半分が除去されます。(野菜、肉、魚については本文参照)

やっかいなセシウム

しんぶん「赤旗」日曜版 8/28号

事故で出たキセノン133などの放射性ガスやヨウ素131が出す高い放射線レベルが急速に下がった後、しつこく残っているのはセシウム137の影響です。私たち放射線防護学者は、放射性セシウムが放出されたと聞くと警戒します。
体重60kgの人が1kgあたりセシ

ウム137を千ベクレル含む食品を100g食べた場合の線量は、別の式にあるように0.0014ミリシーベルトです。被ばく線量は臓器1kgあたりどれだけ放射線のエネルギーが吸収されたかで決まるので、大人よりも体重の軽い幼児などは被ばく線量が高くなります。

体重60kgの人がセシウム137を含む食品を100ベクレル食べた場合

$$\text{被ばく線量} = \frac{0.00002 \times 0.48 \times 100 \times 90}{60} = 0.0014 \text{ ミリシーベルト}$$

外部被ばくから身を守る

しんぶん「赤旗」日曜版 9/11号

体の外からの放射線による外部被ばくの防護原則を紹介します。
第1の原則は、放射線をさえぎる「遮蔽(しゃへい)」です。第2の原則は「距離」をとることです。第3の原則は「時間」です。
放射線から体を守る基本は、可能な限り放射線源を取り除くことです。アスファルトやコンク

リートなら水で良く洗い流し、側溝の溝の泥はかき出すことが有効です。土に吸着しやすく、水とともに移動する放射性セシウムは、降下した初期にはまだ土壌深くには浸透せず、表層の数cm程度の深さにとどまっています。除染の時期は早ければ早いほど効果があります。

被ばくはできるだけ低く

しんぶん「赤旗」日曜版 9/25号

これまで人類は、広島・長崎の原爆被害や、チェルノブイリ原発事故など、いくつかの被爆体験をしてきました。大量の被ばくをした場合の影響はかなりはっきりしているのですが、少しずつ被ばくをした場合、どのくらいのがんにかかるかはまだ確定的な事が言えない段階です。広島・長崎の被爆者約10万人を対象に調べたデータでも、100～200ミリシーベルト以下の領域では明らかながんの増加は認められていないという

ことです。しかし、そうはいつでも低い被ばくレベルでも低い確率なりに細胞が傷つけられますから、がんが起こる確率は高まると思った方がいいと考えられます。

(1ミリシーベルト / 年間の国際基準値を設けているのは)全身が均等に10ミリシーベルト浴びた場合、何らかの原因で死亡する割合は「1万人に1人」程度と評価していることなどを参考にしています。

スクープ連発で注目の

ご購入を

お申し込みは
日本共産党取手市委員会へ
電話/72-7816



しんぶん
赤旗

日刊 ● 月 3400円
日曜版 ● 月 800円